

資料3 代表的な校務情報システムの紹介

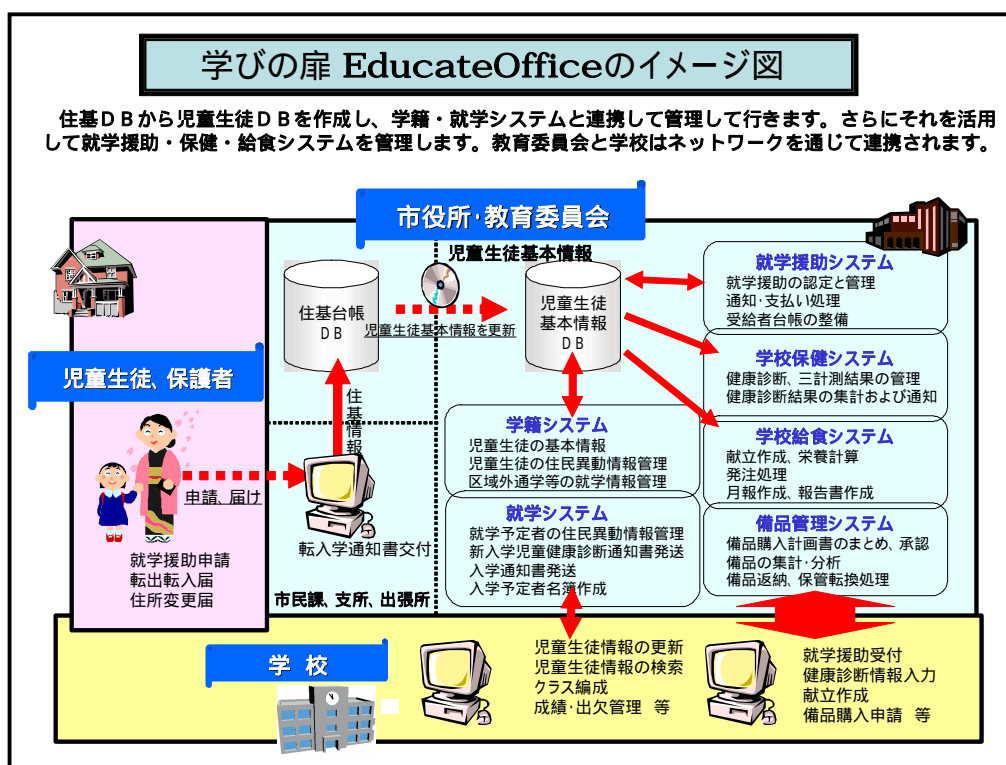
1. 学びの扉 EducateOffice (開発: 日本電気株式会社)

(1) 概要

地域教育ネットワークインフラを活用し、校務・事務をWeb上で処理して効率化する教育委員会を中心に考えた事務・校務システム。教育委員会が市役所のシステムと連携して児童生徒の基本情報データベースを作成し、学籍・就学システムと連携して、就学援助・学校保健・学校給食などの業務を管理できる。教育委員会の業務を広くサポートしており、学校事務・校務とも連携して情報伝達の迅速化、事務処理の効率化を図り、トータルコストの削減を実現できるシステムである。

(2) 特徴

- ・ 学齢簿のデータベース化や児童生徒情報の一元管理で、教育委員会/学校の事務の効率化がはかれる。
- ・ 児童生徒情報を教育施策にシームレスに活用できる。
- ・ ID、パスワード、権限管理、ログ監視などでセキュリティを大幅に向上でき、個人情報保護管理も強化できる。
- ・ 住民異動や就学援助、幼稚園就園奨励受付等繁忙期の人件費削減、教育委員会と学校との紙流通量や配送車両の削減などトータルコストの削減が実現できる。
- ・ 学籍就学管理の精度向上とスピードアップ、就学援助の認定業務の時間短縮、給食情報のWeb公開、統計情報による効果的な施策実施など、住民サービスの向上につながる。
- ・ 教員の校務/事務の効率化をはかり、教育の情報化を支援するとともに、「地域コミュニティの形成」や「開かれた学校づくり」をサポートできる。

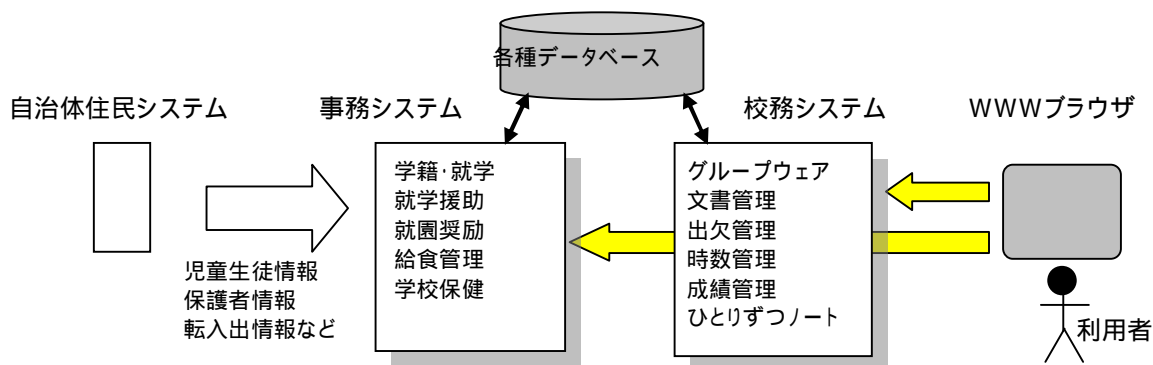


2. @SCHOOL 校務システム (開発: 富士通株式会社)

(1) 概要

『@SCHOOL』の各システムは広域でも校内だけでも活用できるのが特徴である。2000年代初期はまだ全国の情報インフラが貧弱であったため、各学校にサーバを設置した校内利用が中心であったが、その後の高速ネットワークの爆発的普及により、現在では多くの自治体で本格的な地域ネットワーク型のシステムが構築されている。過去、ほとんどの情報が紙やFAXでやりとりされ、同じ情報量しか持たないデータが何度も入力されては印刷されていた時代が、ようやく変化しようとしている。

校務関連システムとしては、教育委員会における各種事務業務を自治体の住民システムと連携して行う「教育委員会事務システム」と、学校の教職員の事務業務を支援する「校務システム」の二種類が必要とされる。これらは児童・生徒情報や教職員情報などの基本的なデータを共有することで大きな導入効果が得られる。また、すべての機能がWebブラウザから利用できることは、端末の導入・運用・拡張などの面から重要である。



(2) 特徴

「事務システム」には、学籍就学 / 就学援助 / 就園奨励 / 学納金管理 / 給食管理など、教育委員会が主体の各種業務を支援する機能が求められる。一方、「校務システム」では、教職員の日々の煩雑な文書管理を効率的に実現することが求められる。本システムは文書やメッセージの交換、共有ライブラリ、電子会議室などの一般的なグループウェア機能に加え、行事予定 / 調査回答 / 訃報 / 施設予約 / 備品など、学校向けに特別に作り込まれた電子コミュニケーション機能により、これを実現する。また、出欠管理 / 成績管理 / 通知表 / 授業時数管理など、手作業や表計算ソフトなどで担当者の大きな負担となっている業務については、児童生徒のデータベースを中心に大量のデータを容易に一括処理する機能を提供する。最近では、転入出や進学などで教育の継続性が失われるといった問題や、いじめ問題などを機に、多くの教職員が多面的に児童生徒を育成していく必要性が指摘されている。本システムは、全教職員が全校の各児童生徒の生活・学習活動などを記録できる「ひとりずつノート」という機能によりこれを支援している。

3 . OpenSchool シリーズ(開発:株式会社内田洋行)

< OpenSchool コミュニケーション for Teachers >

(1) 概要

教職員の情報共有を促進し、質の高い学校運営を支援するグループウェアシステム。学校内での情報共有から教育委員会と学校間の連絡業務・文書管理までトータルな情報共有基盤を提供する。



新着情報画面



全職員の利用状況画面

(2) 特徴

1) 学校での使用に特化したグループウェア

学校特有の組織構成への対応, 個人スケジュールと学校行事を統一的に表示可能など学校での使用に特化している。

2) 教育委員会・学校間の連絡を効率化

多くの文書がやりとりされている教委と学校間の連絡業務に注目し, これを電子化・効率化する通達機能を装備。また簡単にアンケートを作成・回収する機能も実現している。

3) 少ない端末での運用を促進

現状では職員室にある業務端末(コンピュータ)が十分ではないことを考慮し, 管理者が各教職員の「未読状況」を一目で確認できる機能を搭載(アナウンスボード機能)。少ない端末でも教職員の利用を促すことができる。

< OpenSchool CMS >

(1) 概要

学校ホームページの日々の更新を簡単な操作で行うことができる Web コンテンツ・マネジメント・システム(CMS)。学校ホームページを活性化することで, 地域への情報公開と連携強化を促進する。

(2) 特徴

1) 簡単な更新操作と承認機能

ブラウザだけで日々の更新作業が可能。担当の先生方はページを作成するだけで, トップページや中間ページを自動で生成する。二段階の承認機能にも対応しており役割分担と責任を持った管理が可能。

2) 学校用テンプレート

学校に必要な Web サイトの構造やページデザインなど多くのテンプレートをあらかじめ用意しており, スムーズな導入を可能にしている。

4. スクールオフィス (開発: 東日本システム建設株式会社)

(1) 概要

1) 校務システムの目的

学校における事務作業(校務)全般にわたる機能を提供することでその効果を最大化し、事務作業に関わる時間を短縮して先生の時間的なゆとりを創ることを目的としている。

2) 対象範囲

主に公立小中学校を対象とした校務全般および学校間・教育委員会との連絡・情報共有, およびITを活用した保護者等とのコミュニケーションを対象範囲としている。

3) 対象業務

学校内の校務機能

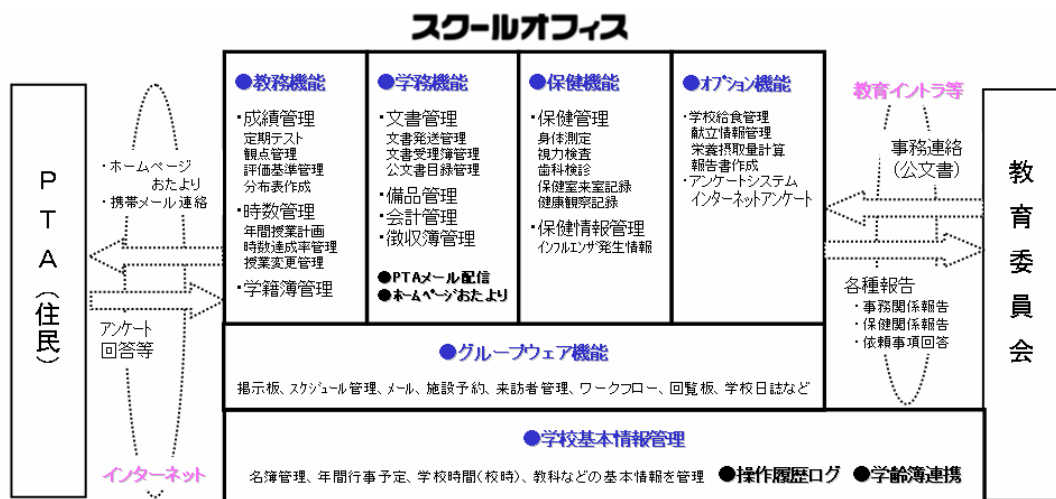
学校基本情報管理, グループウェア, 成績管理(通知表・指導要録・調査書含む), 時数管理(週案作成含む), 保健管理, 文書管理, 預かり金管理など校務全般

学校間・教育委員会との情報共有機能

各種報告, グループウェア, 文書管理, 会計管理, 備品管理 など

保護者等とのコミュニケーション機能

ホームページおたより作成, PTAメール配信, インフルエンザ情報提供 など



(2) 特徴

- 1) 共通データの一元管理 : 様々な校務作業において共通に必要な情報(児童生徒名簿, 教職員名簿, クラス構成, 校時, 年間行事など)を基本情報とし, 各システム間でデータを一元的に管理している。
- 2) 校内LANと教育イントラネットの活用 : 学校内で行われる業務(情報)は学校内でクローズしたデータ管理ができ, 教育委員会や学外への報告などにおいては教育用イントラネットを活用して学校側の判断を元に伝達できる。
- 3) 高い操作性 : クリック操作によるデータ設定やコピー&ペースト機能など多くの使いやすいマンマシンインタフェースを提供している。
- 4) セキュリティ機能 : サブシステム単位, メニュー単位, データ項目単位に詳細なアクセス権限設定が可能で, 操作履歴のログの収集も可能であるとともに, セキュリティ専門製品との連携カスタマイズができるなど, 高いセキュリティを確保する工夫がある。